

<b>潮 陵</b>	学校だより 第 7 号	教育目標
	平成 27 年 11 月 24 日	『ふかく考え、豊かな心を養い、たくましく実践する生徒』
	上越市立潮陵中学校	目指す生徒の姿 『ひとみを輝かせ、たくましく実践を積み重ねる生徒』

## 潮燻に思う！

10月以降、出張で市内の学校や教育委員会に行くと、異口同音に「潮陵はそろそろ鮭の季節ですね。」とか「今年も潮燻作るんですか？」等いろいろな言葉をかけられます。想像以上に潮陵中学校の鮭に関わる教育活動は広く知れ渡っているんだなと実感しました。そこで、私なりにこの「鮭の捕獲・加工体験」がいつ頃から始まったのか、調べてみることにしました。全ての学校には、学校の歴史を綴った学校沿革誌があるため、それを手がかりとして調べてみると、重要記録の項目で平成7年まで遡ることができました。沿革誌には、「平成七年十二月二日、十一日 勤労体験学習 鮭捕獲～加工 全校生徒実施」と記載されていました。この記録によって「鮭の捕獲・加工体験」を始めた当初は、今より実施時期がかなり遅かったこと、今と同様全校体制で実施していたことなどが分かります。ちなみに平成7年度の生徒数は89人でしたので、現在の4倍近い全校生徒がどのように投網を使って捕獲し、加工に関してはどんなグループ分けで何に加工していたのだろうか興味は尽きません。また、12月での実施ということで、随分寒い中での活動だったことが想像されます。

「鮭の捕獲・加工体験」を通して最も強く感じるのは、潮陵中学校の伝統とも言うべき地域密着型教育活動の集大成だということです。豊かな自然や伝統文化を有している校区なだけに、地域への誇りや愛着を育むための素材として鮭を取り上げた着眼点がまず素晴らしいと思います。ただ単発的に鮭を捕獲・加工するのではなく、山・川・海はつながっているという共通理解の下、5月の海岸清掃や6月の海開き、10月の魚の森づくり活動等を積み重ねて「鮭の捕獲・加工体験」につながるわけです。地元の自然環境を通し、自然の連鎖や人間が自然から受けている恩恵等を生徒たちは身をもって学んでいきます。そして、全ての教育活動を支えていただいている保護者や地域の方々に活動の成果品である「潮燻」に感謝の気持ちを込めて配ることで一連の活動の完結となります。まさにストーリーのある教育活動と言えます。

「鮭の捕獲・加工体験」を通してもう一つ強く感じることは、生徒たちの勤労意欲の高さです。指示待ちの生徒や所在なげにしている生徒は皆無です。一人一人が自分の役割分担に真剣に向き合い、黙々と作業をこなしていきます。それも1時間や2時間ではなく、丸一日です。つい最近あるキャリア教育研究会の実践発表において職場体験で生徒を受け入れている企業担当者の方が、社会人として最も大切な資質は「真面目で勤勉であること」と話されていました。潮陵中生は幼児期、小・中学校期とこの地域ならではの体験を積み重ね、この大切な資質を自然に身に付けていくのだと思います。そうした意味で、「鮭の捕獲・加工体験」はキャリア教育の観点からも極めて有意義な活動だと言えます。これからも潮陵中ならではの「鮭の捕獲・加工体験」を大切に守り伝えていかなければとの思いを強く感じています。

(文責：松縄)